



本校教育目標：【自主】自ら進んで学ぶ生徒【寛容】明朗で思いやりのある生徒【挑戦】健康でたくましい生徒
〈重点目標〉高い目標を持ち、ねばり強く努力する生徒 **～夢の実現～**

原町三中だより

平成31年1月 8日(火)
第11号
発行責任者
校長 熊澤 正人
電話 22-3802

明けましておめでとうございます。 高い目標を持って努力する年に！

明けましておめでとうございます。平成31年が始まりました。

3学期の始業式には、進路実現を目指し強い意志と自覚が見て取れる3年生、三中の中心として活躍するための力を蓄えてきている2年生、まもなく新入生を迎え中学生として恥ずかしくない力を備えつつある1年生が元気な顔をそろえました。

今年の4月で平成が終わり、5月から新しい元号が制定されます。一つの時代の区切りを体験しますが、今後の社会は今までよりも更に変化の速度が上がり、私たちが経験しなかった様々な課題や問題が出てくることでしょう。

そういう変化の激しい世の中を生きる生徒に対し、自分の可能性を信じ高い目標を持って努力する生き方ができるよう、教職員一同尽力して参ります。本年も本校教育活動に対しましてご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

人はいつからでも変わることができる 努力は必ず道を開く！

冬休み中読んだ福島県退職校長会の広報誌から抜き出した記事です。教えられることが多く生徒にも紹介しました。

津波で流され、一命を取り止めた人の中に、「拾った命。死ぬ気で生きよう。」と考え、新たな人生を切り拓いた人がいた。

S子は、中学生時代勉強が嫌いだった。自宅に近い水産高校に入学した。好きな釣りができない時は、携帯ゲーム。自堕落な日々を送った。

震災当日も朝方までゲームに熱中し、昼過ぎに起きた。激しい揺れだった。危機感無きまま約四十分が過ぎ、ふと窓の外を見ると、黒い水が見えた。百四十メートルほど離れた堤防が崩れている。一階に下りたが、浸水が始まり、水にのまれた。体が自由にならず。車や屋根が近くをかすめ、「助けて。」と眼前を流れる車の中で女性が叫ぶ。自分自身も（もう、死んだな。）と観念した時、漁網に引っ掛かった。水が引いた後、友人に出会うと力が抜け、へたり込んだ。

二ヶ月後、生活が落ち着きを取り戻すと、将来に目が向いた。振り返ると頑張れない人生だった。（いつ死んでもおかしくないなら、日々を大事に。どうせ生きるなら人のために・・・）そう考え、頭に浮かんだのは、人の命を救う医療現場だった。

進学先に地元私大薬学部を選ぶと、塾には学力不足を理由に断られ、金の無駄だと周囲に反対された。

しかし、薬局を営む夫婦は「頑張れば大丈夫。」と応援してくれた。釣りやゲームを封印し、未明まで参考書に向き合った。大学薬学部に見事合格した。

大学進学後も机に向かい、薬剤師模擬試験で上位に食い込むようになった。国家試験に合格し、卒業した。